

株式会社アライブメディケアにおける QC 検定導入事例のご紹介

株式会社アライブメディケア
教育推進部

【会社概要】

株式会社アライブメディケアは、介護付有料老人ホームを東京都内近郊で 12 施設（うち運営受託 1 施設）を運営しています。

本社所在地 東京都杉並区高円寺北 1-17-5

設立 1980 年 6 月

資本金 5,000 万円

従業員数 463 名（2026 年 1 月時点）

代表取締役 安田 雄太

事業内容 介護付有料老人ホームの企画・運営

関連会社 セコム株式会社



当社は介護保険制度が導入される前年、1999 年 12 月に「アライブかながわ」を開設し、介護事業をスタート。当時、老人ホームは家族の住宅圏にある前例がなかった時勢に、それまで入居者がお暮らした馴染みのあるエリアに、東京都内近郊の閑静な住宅地の「スープの冷めない距離に親を介護のプロに預ける」というモデルを確立しました。

小規模・介護スタッフの手厚い人員配置（ご入居者 1.5：スタッフ 1 以上）で、高価格帯の老人ホームを展開しています。ご入居者の入居時平均年齢は 90 歳、何等かの介助が必要な方がお暮しになる介護付きホームです。

2020 年からのコロナ禍による社会情勢変化と時を同じくして、その数年前から順調な経営に陰りが見え始めたのを機に、2019 年より就任した現代表が経営改革に着手しました。それまでの漠然とした経営理念を刷新し、企業 VMV(Vision/Mission/Value)と行動指針を、現場の声に耳を傾けた内容にて策定。ウェルビーイング経営を標榜し、“スタッフが幸せでないとお客様を幸せにできない”という考えのもと、「人が財産」であるという社風にシフトしています。

理念の浸透と社員教育に注力し、スタッフ教育や研修を充実させることで、介護の専門性向上にも真剣に取り組んでいます。従来のお世話型・属人的で経験則的な介護サービスを脱し、再現性のある介護でご入居者に満足いただけるサービスを提供すること、さらに介護業界の“3K”“誰でもできる仕事”というイメージを払拭し介護スタッフの地位向上に繋げるべく、教育取組を続けています。

【導入の経緯】（なぜ、介護の会社が生産性を？）

当社が目指す人材像は、渋沢栄一翁が「論語と算盤」内で述べている、「全き(まったき)人」の定義「知情意：知（知恵・知識）・情（情愛）・意（意志）をバランスよく兼ね備えた人」としています。介護の実務ではご入居者のご生活全般にかかわるため、ご入居者の身体特性や介助の方法、病

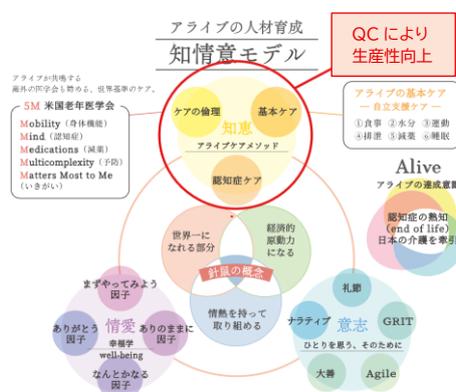
理の把握、リハビリの注意点など、知識をつけるべき分野は多岐に亘ります。あわせて、ご入居者のこれまでのご生活歴を理解し、お一人おひとりに寄り添い、真の望みを叶えたいという情愛を持ったスタッフが実現に向けて強い意志で叶えることを目指しています。

当社では介護の専門性（すなわち「知」）の研修において、自立支援ケアの理論と実践・身体特性を見極めた身体介助・認知症対応・排泄の知識などの多様な内容を学んでいますが、それらの知識を集結しご入居者お一人おひとりのケアを考えぬく際に不可欠なのが、QCの考え方です。

介護の現場では介護スタッフだけでなく、看護スタッフ、栄養士、薬剤師、医師、生活相談員、そしてご入居者家族がチームになってかかわります。

まず個人が考え実践し、チームで可視化して皆で考え、業務改善をすることでそれぞれの知識や得意分野を持ち寄り、整理して可視化し分析することがケアの質を上げるうえで重要となります。とくに多職種でチーム形成をする介護現場には、とても必要な考え方です。

当社では、各分野の知識を最大限に生かし、ご入居者お一人おひとりのよりよいケアに繋げ質の向上をはかるため、QCサークル活動の導入を開始しました。



【取り組み事例】

介護の現場とは一見無縁な「QC」の考え方。社内でも経験がないため、外部パートナー様の力をお借りして浸透に着手しました。講師に、介護業界に知見があり製造業のご経験もある、元 株式会社長谷工シニアホールディングス取締役会長の浦田慶信様を迎え、以下の活動を行いました。

1) QCサークル活動研修を実施

各ホームより管理者・看護スタッフ・介護スタッフ等多職種より参加メンバーを募り、ホームメンバーでQCサークル活動を実施しました。私たちの介護現場は、たすきリレーのようにメンバーチェンジしながら24時間365日つないでいく業務です。全メンバーの視点の底上げ、起きた問題が速やかに共有され、サービスを提供しながら改善していく仕組みを学びます。

サービスの改善に向けて、期待される導入のメリットとして

- ・目の前の課題・問題を可視化する
- ・それぞれの専門職からの視点の思考、頭の中を見える化する
- ・多角的に俯瞰して物事を見ることができる
- ・言語化して共有することで、チームの合意形成を図ることが可能になる

チームケアでは、目的の合意が狙いの品質向上に繋がることを参加メンバーが改めて体感する機会にもなりました。



QCサークル活動の様子

2) 介護の専門性を上げ、介護職員の地位の向上を目指す

研修で学んだ知識を各現場でチームにしっかり落とし込み、チーム醸成、ケアの品質向上と統一化、業務改善を図るため、介護主任・介護リーダーに資する社内資格「介護士長」を創設。現場での介護に係わる総責任者としての責務を一任する立場としています。その介護士長の資格要件に「QC検定4級合格」を取り入れました。受検手続き並びに費用は会社負担とし、人材育成の一環に位置づけています。



3) ホームでの介護事例検討に「QC 7つ道具」を使用

●特定要因図を用い、ホームの多職種スタッフでご入居者のニーズを探り日常のケア方針を決める

→チーム各人のヒアリング情報や知識を持ち寄って整理し、分析と方針決定に役立ちました。

●管理図で食事量や検査データを可視化し、日々のケアの健康管理の考察に生かす

→介護は感情労働ともいわれています。ご入居者の表情や身体の具合など、定性的な観察からケアの方針を考えることはできましたが、合わせてそれまで現場スタッフが苦手だった、検査データ等、定量からの分析も可能になりました。

これらの考察を各ホームのスタッフが自発的にできることにより、感情に寄り添う「情」を、論理的な「知」が支える構造がうまれます。

【QC4級取得後の学び】

●実践研修開催

QC4級を取得したリーダー層を対象に、取得の成果をケアの質の改善と向上に生かしていきます。実際にかかわっているご入居者の実際の個人情報・検査データ・栄養データを基に、まずテーマ選定からチャレンジします。リーダー層に求められる会社全体のケアのレベルを上げるための視点から情報分析をして生産性向上を考える機会となります。

【QC検定の受検実績】

2025年9月 QC検定4級受検

介護主任・リーダー・教育担当部署スタッフ 20名受検、全員合格

【今後に期待すること】

当社でも積極的に介護のDX化に取り組む中で、ご入居者の身体状態の各データが数値で見える化できるようになりました。そのデータ類を、介護の専門性を持ったうえでいかに整理してケアを考察できるかが、質の高い再現性のあるケアに繋がります。知識を得て現場でできることの可能性が広がる環境下で、ホームのリーダー層のモチベーションも上がり、質の高いケアの統一化に繋がっています。

「人が足りない」「大変だ」という現場にはびこる陰性感情を、論理的に分析して解決に向かう技術を獲得することで、問題解決型の現場が生まれていく手ごたえがあります。今後の業界課題でもある「介護人材不足」という問題があるなか、志と知識があるスタッフを育成することで離職率低下にも寄与します。

QC の考え方を基に業務効率化と DX で質を保ち、各現場で後進を育成することで、当社ならびに介護業界全体のサービスの底上げにこの QC の考え方が広がるよう、活動を続けてまいりたいと考えております。